

婦人学

第拾壹卷

フレール會

フレーベル會規則

第拾壹卷第拾壹號目次

○ 歐米女子教育の趨勢	齋藤 斐章
○ 感情の發表	川島庄一郎
○ 身體の成長と發達	日田 權一
○ 子供の叱りやう	羽仁もと子
○ 哺乳兒營養法	本間 辰藏
○ 子供の癖に就て	杉浦恂太郎
○ 切花の取扱	こむかひ
○ 机邊だより	倉橋 惣三
△ 幼稚園の改良(スタンレーホール氏)	
○ 雜錄	

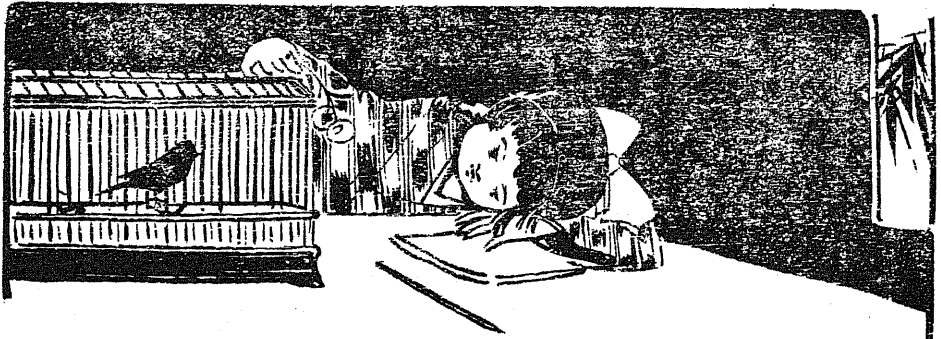
- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タルラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一月金拾錢ヲ贈出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
- 一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品幼兒成績物展覽會務ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス
- 但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
- 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
- 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
- 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
- 一 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
- 一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一人 會務ヲ總理ス
- 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第九條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコトアルベシ
- 第十一條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

購讀の申込

振替口座東京
一七二六六番

本誌を購讀なされたき方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分なま
とめて振替貯金へ御拂込下されば直に雜誌を發送致します。

- ◎一冊郵税共金拾一錢
- ◎六冊前金郵税共六拾錢
- ◎拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎郵券代用一割増



第十卷第十一號



めぐりては

歐米女子教育の趨勢

東京高等師範學校教授 齋藤斐章

(フレイベール會十月常集會に於ける講演の大要)

今日皆様の御集會に臨みまして、何か彼地の教育上の事を御話するやうにと云ふ御依頼で御座いましたが、もとく私のおちらへ參つたのは、無論教育上の事柄を取調べる爲めでありましたけれども、それは皆様の御研究になつて居られる幼稚園教育とか、女子教育とか云ふ事とは縁遠い方面の事柄を取調べに參つたのでありますから、従つて皆様の御参考になるやうな、十分價値のある御話をするには出來兼ねるのであります、一度は御辭退致しましたのですが、たつてと云ふ御依頼で御座いましたから、それでは私がおちらに居りまする間に見聞して、感じた事を二三御話致さうと思つたのであります。これと申しまして、歸朝後日も淺く、それに歸りますと直ぐに公務の

方が忙しむ爲めに、主として取調べて來ました事柄の、整理さへもついて居ないやうな有様でありますから、逆も系統のたつた、纏りのある御話をすると云ふことは出來惜いのであります。其の御心算で御聞取りを願ひ度いのであります。

一、獨逸に於ける女子の普通教育

先づ、歐米諸國に於きまして、女子の普通教育が、どう云ふ傾向になつて居るか云ふ點に就いて、少しく御話し度いと思ふのであります。これに就いても御断りして置かねばなりません。これは、歐米各國に於きましても、略ぼ日本と同様に、男子と女子との教育制度が分れて居るのであります。私は其の中で男子の方の教育を取調に參つたのでありますから、主として女子教育と云ふ立場から、之れを取調べたものではないので、たい男子の方の教育を見る爲めに、女子の方を注意した

その事柄を此處で御話しやうと思つてあります。

先づ獨逸に居ました間に見聞した事柄を二三申しますと、獨逸が女子教育と云ふことに注意するやうになりましたのは、極く最近の事實であります。そして其の制度は日本の高等女學校の制度と餘程差があるやうに思はれます、例へて申しますと男子の中學では、ギリシヤ語、ラテン語、英語其の他物理、化學と云ふやうに専門の學校に進む楷梯となるやうな學科を課することになつて居ります。之れに反して高等女學校の方は、ギリシヤ語やラテン語は一切課せないことになつて居て、數學の如きも、男子の中學のやうに高尚なものを課せない、英語、佛語は彼國では、生活上どうしても必要になつて居りますから課しますけれども、これも實用に適するやうに教へるのであります。それから物理化學も、料理法や裁縫を修めるに是非必要な程度に教へて行く、年限も男子の中學は十二年になつて居りますけれども、高等女學校は

十年でありませす。

要するに獨逸の女子教育の方針と云ふものは、高尚な學問のある女子を造る目的ではなしに、一家の主婦として立派な資格のある良妻賢母を養ふと云ふことにあるのであります。さう云ふ目的からして、高等女學校では、成るべく日常生活に必要な事柄を教しへて行く、結り婦人の常識を養ふと云ふやうになつて居ります、この點は日本の高等女學校の教育方針と違つて居るのであります。勿論これは中流社會の女子弟が行く學校でありまして、中流以下の一般の子弟は六歳から八ヶ年間普通の小學教育を受けることになつて居ります。小學校の課目は男女とも英語も佛語も課せないことになつて居ります。

二、獨逸に於ける男女共學

問題

次に、近來教育上の問題になつて居る男女共學

と云ふ事に就いて、獨逸の教育家は一般にどう云ふ意見を持つて居るかと申しますと、一般に男女共學はいけないと云ふ論者が多いのであります。何故男女共學がいけないかと云ふと、男子と女子とは互に異つた性質を持つて居る。其の一端を申しますと、男は粗暴で女は柔和である、女は中にあつて家事に勉め、男は外に出て働くことと云ふやうに其の性質なり職分なりが根本に於いて違つて居るのでありますから、それに施す教育も自ら異つていかなければならない、其の兩者の職能に適はしい教育を施して、そして社會の必要に伴つて行かなければならないと云ふことにあるのであります、小學校も初の四ヶ年は男女を一緒にしてありますけれども、それから上は二つに分けてあるのです。

私が彼國の教育會へ參つた折りに、此の男女共學の可否と云ふことが問題になつた事がありました、其の時にも多くの教育家は共學がいけないと

云ふ人でありました。然し男女共學がいけないと云つても、昔のやうに女は男のやうな働きをする能力のないものであるとか、女は先天的に男の下に付くべきものであるからと云ふのではないのでありまして、前に申したやうに、其の兩者の性質なり天分なりが違つて居るのであるから、各其の長所を發揮するやうに努めねばならないと云ふのであります、世の中には女であつて、男のするやうな仕事に長じた天分を持つて居らるゝ方も少なくはなく、また男であつて女のするやうな仕事に適した性質の人も決して少くはないのであります。例へば學者であるとか發明家であると云ふやうな天才も女子の中にも相應に多いのであります。故にさう云ふ人々の爲めには、其の天分を發揮する事の出来る道を開いて置く。其の爲めに十年の高等女學校を卒業致しますと其の上に専攻科と云ふものがあつて、其處で大學に入る準備の教育を受けるのであります、其處を卒業しますと、其の學

四
校の校長が大學入學の資格試験を行つて、それに合格した者は自由に大學へ進むことが出来るのであります。此の點は男子の中學と同様である尤も女子の入學し得る大學は全體の三分の一位でありまして、何の大學へでも入學が出来ると云ふ譯ではないのであります、兎に角、さう云ふ特殊な性能を持つて居られる女子にはさう云ふ道も開けて居るのであります。今日でも女子の入學し得る大學へ行つて見ますと女子の生徒が十分の一は居るのであります。

それから美術學校へ行きましたも、クンスト即ち繪を畫くとか細工をするとか云ふ方では、矢張り男女共學を許して居ります、其の他の専門學校も同様であります。

三、男女共學の餘弊

これは男女共學そのものに伴ふ弊ではありませぬけれども、同國の或る大學教授が指摘した一の

餘弊があります。それは彼の地の大學では大學としての制服制帽は定められてないのであります。生徒は自分々の出身で團體を造つて、其の團體が自ら制服制帽を一定して濶歩するのであります。ですからさう云ふ團體が一の學校に幾つもある譯でその團體が各自分の會を造つて、ビールを呑むとか、いろ／＼な運動をするとか云ふやうになつて居る女も此の中へ入つて男と一緒にさう云ふことをするのであります。これが教育上どうかと云ふことが、百年祭のあつた時に、ある雜誌に其意見が發表されて居たのであります。

四、英佛の男女共學

佛蘭西ではどう云ふ風になつて居るかと思しす。私はバリーに滞在しましたのは僅の日數でありましたから、總がさう云ふ風になつて居るかどうかは斷言出来ませぬけれども、私の見た處だけでは、矢張り男子と女子とが分れて居りま

して、小學校も男子部、女子部と幼稚園と分れて居る、どうも斯う云ふ制になつて居る方が多いやうに見受けられました。

英國も矢張り同様の制になつて居るやうで私は英國では主にイートンや、ハローのやうな學校を見る爲めに、多く田舎に居ました爲めに、倫敦に止りましたのは僅に卅日に過ぎなかつたですから、無論一般に就いて云ふ譯にもゆかないけれども、私を見た處では、男女の學校が分れて居たのであります。

五、米國の男女共學

米國は一番男女の區別をつけない國であります。然し米國でも總の學校がさうかと申しますと、中には小學校から、もう分けてある處があります。又、中等學校になつて分ける處もあつたのであります。

然し一般に云ひますと、男女共學は米國が一番

多いのであります。それが日本へ入つて来て、一時は日本にも共學論が盛んになつたのであります。然し私がポストンへ行つた時に、文部省に行つていろいろ話をして、男女共學はどうかと聞きますと、今それが問題になつて居るのであると答へたのであります。斯う云ふ事實に就いて考へますと、どうも米國ですらも、男女共學が段々變つて行くのでなからうかと思はれるのであります。

それに米國の男女が一緒に授業して居る處を見ますと、どうも歐洲大陸に居て見たやうに、眞面目ではなかつたやうに見受けたのであります。これは日本の心で見ても、さう感じたままで彼の國の感情から云へば、決して悪い事ではないのであるかも知れませぬが、兎に角諸外國のそれと比べて嚴肅の氣分が缺けて居るやうに思はれ、中には授業中にふざけて居る生徒すらもあつたのです。而も授業上に於きましても、女の勢力が男よりも多いので、質問をしても男の方が恥かしさうに、や

つと質問をすると云ふやうに、總の點で男が女に壓せられて居る傾があつたやうに思はれました。これは私が男子の方を見に參つた間に氣附いた點であります。高等女學校へ行ましても、ズキズキ亂暴な事が行はれて居るやうであります。こゝでは立派な御嬢さまでも、放課後は廊下でズンズン立食をして居る。尤もあちらでは朝は食事をせないので、持つて行つて學校で食事をするやうになつて居ますから、日本の人が考へる程に悪いことではないのであります。これが日本にしますと少くとも食堂位は一定して、其處で一緒に食事をすると云ふやうな事が至當であらうと思はれます。すのにあらでは、廊下に立ちながら食つて居るやうな状態であります。

六、瑞典に於ける體育教育

瑞典へ行きまして、ストックホルムの學校を少し見ました。其處では手工、體操が非常に進んで

居まして、女子の體格が餘程優れて居ります。小學校でも、別々に別けてあるけれども、男子と同様な運動をして居ります爲めか、體格が非常によいのであります。例へば股引のやうなものをはいて、鐵棒や梯を渡るといふことは普通でありますこれも日本から云ひますと、少しをかしいと思はれますが、あちらでは、男でも女でも體育は同様に必要であると云ふ考へから來て居るのであります。

其の他常識にかけても、女の方が遙に進んで居るやうに思はれます。道を尋ねましても、男は解りが悪いけれども、女はすん／＼教へて呉れる。語學にすぐれて居ることは殊に著しくあります。パリへ來ましても、随分瑞典の女が來て、それぞれ仕事をして居るのであります。斯う云ふ教育の仕方を、どう云ふ點まで、日本が真似てよろしいかと云ふことは、皆様の御判断に任せて置き度いと思ひます。

七、獨逸の家庭

これで舉制の一斑は申上げましたから、次に彼の地の家庭の有様に就いて少しく御話し度いと思ひます。これも廣く見た事ではないので、其の一斑に過ぎないのでありますから一般がさうであるとは決して申しませぬ、世間には外國から歸朝された人の御話を聞いて、今度自分が行つて見ますと、これ迄聞いた事と、實際に自分の見た處とは非常に違つて居たと云ふ事は往々ある事であります。實際私もさう云ふ感じを抱いた一人ではないので、人は自分の見た一部分だけを語るからであります。

先づ獨逸に就いて申しますと、獨逸では一族の中にあつてすらも、個人主義が大變重んじられて居るのであります。これは一方から申しますと非常によいことで、詰り他人に倚らない、自分の

事は飽く迄自分ですると云ふ獨立心や、貧富の差は自分自身の働きた次第にあると云ふやうな事を子供の時分から養つて行くのであります。それであるから日本のやうに、一も二も父兄に倚ると云ふ依頼心が起らない、従つて父兄の不親切を恨むと云ふやうな事がない。これが個人主義の長所であります。

私の一友人が下宿をして居ました家に五十餘りの寡婦が居まして、廿四になる娘と、男の子が一人居たのであります。其の娘が非常に精巧で、帽子會社へ勤めて月に百マルクの収入があつた。ベルリンでは生存競争が激いのですから、中流以下で百マルクも取ると、随分善い給料なのです。其の中で五十瑪は食料として家へ入れる。詰りお母さんは娘を下宿させて置くのであります。で、娘の爲めに下宿人としてこの設備を立派にして置く、然しお母さん自身は貧しいから、臺所の隅に寢臺を置いて、其處がお母さんの居室であります

それでさへも娘は取扱上に随分不足を云ふ。お母さんは、又それな理由でこれに反對すると云ふやうな事が行はれて居る。これ等は日本から云ふと非常な親不孝になるのですが、あちらでは何とも思つて居ない、尙其の上に食物でさへも、お母さんは収入がないから娘の残りを食べると云ふやうになつて居ります。そして娘は残りの金を結婚の用意として、貯金をするのであります。中以下の娘はさう云ふ風に自活をして、二千瑪も入る結婚費を造るのであります。故に上流の家庭であるとか、遺産のある家の外は、此の金が出来ない内は結婚をせないのです、さう云ふ娘は高等女學校に居る内から、卒業後何をして其の金を蓄めやうかと云ふ事に腐心するのであります。

此の家庭は少しく極端であらうと思はれますけれども、大體は皆高等女學校を卒業して職をとると、其の収入の中で幾らか入るので、其の内に差はあつても略ぼ同様であります。そして、大抵

は十年位蓄めてヤツと其の金を造るのですから、十六に高等女學校を卒業しますと、廿六にならなければ結婚が出来ない。それも悪くゆくと廿年も掛るさうで、四十近くになつて漸く結婚の準備が出来来る娘もあるさうです。これは男でも同様で、大學へ行つて居る人は、普通に中等以上の子弟でありまして、其れ以下は皆同様の自活をして居るのであります。

これは各獨立して自分の事をやると云ふ上には非常によい事で、個人主義の長所と観ることが出来ますけれども、然しそれと同時に吾々から見て非常によくないことも含まれて居るのであります。英國の個人主義は獨逸程に激しくはありません。英國では一の家族全體を一の個人として居ります。獨逸の一人々々を單位として居るのに比べて非常に相違であります。

八、日本の家族制度の長短所

私が向に居てさう云ふ家族制度に接しました時に、日本の家族制度の長所を想起して、どうか其の長所を歐洲文明の爲めに破られないやうにしたいものであると望んだのであります。日本の家庭と歐洲の家庭とを比べますと、其の間に非常な差があります。そして長所はどちらにもあると共に短所もあるのですから、彼地の長所を取り入れて行くと云ふことは、勿論よい事でありませうけれども、其の爲めに、自分の方の長所までも破ると云ふやうな事があつてはならないと思ひます。日本の家族制度の弊害は、歐洲と反對で、依頼心が多過ぎる事でありませう。故に各自が奮勉努力すると云ふ心掛けない。その最も甚しいのは朝鮮であります。私の友人で朝鮮の學校に居る人が、朝鮮の教育上に非常に熱心な方でありまして、朝鮮を同化するには、どうしても朝鮮の女子と結婚する事が必要であると思ふから、先づ自分自ら朝鮮の女と結婚する事に決したと云ふ音

信があつたので、私も非常にいゝことだと思つて居ました。すると後になつてそれを止す事にしたと云つて、其の理由には、朝鮮では自分の娘が他家へ嫁すると、其の娘も親も兄弟も伯父さんも一家揃つて、夫の家へついて来る、そして悉く遊んで、食ふと云ふ習慣になつて居るから、逆も見込がないと云ふのであります。これは最も極端でありますけれども、少しでもさう云ふ依頼心があると、それが家庭を破る基となるのです。

ベルリン大學の教授をして居られる辻様にあらで御目に掛つた時にも、家庭制度の話が出来ます、先生の言はれるには、日本の家庭ではどうも兄に生れた人は十分の發達をする事が出来ない。自分には十分發達する才能もあれば、望もあるけれども、親に代つて子弟を教育せねばならぬ。その爲めに兄の方が才能が餘けいにあると思ふ場合でも、見す／＼其れを犠牲にして、弟を教育せなければならぬ場合が多いと云つて居られます。

たが、誠にこれは日本の家族制度の大なる弊害の一人であります、兄の方が出来れば、弟の方は多少疎にして、兄を十分に發達せしめる方が、人物經濟の上から云ひましても、餘程利益であらうと思はれます。

もう一ツの弊は、年寄りであります。日本人は五十にもなると、もう隠居さんだと云つて、する事もなく遊んで居るのが普通であります。和田垣博士が或る學校で經濟の講義をせられた時に、日本の發達出来ないのは、食客が多いからである、日本の食客とは何んであると申しますと、年寄と子供であると言はれたさうで、それにも幾分の理はあると思はれます。

九、どうしたら此の弊が

除けるか

では、斯う云ふ弊害を日本の家庭から除いて、十分に獨立心を養ふには、子供にどう云ふ教育を

施して行けばよろしいかと云ふ事は餘程困難な問題であらうと思はれます。子供に年がいつてからの獨立心を養はうとする爲めに、親は死ぬ迄働かねばならぬものだと思へたとしますと、今度其の子供が成長して結婚しました時に、教へられた儘の考へから、其の舅や姑を粗末にすると云ふ場合がないとも云へないのであります。

それから日本の姑が嫁に對する態度にも、随分と嫌らぬ點があるやうに思はれますけれども、此の間の教訓は子供の時には出來憎いものであります、これ等の點をどうして改めて行くかと云ふことは、十分考へて見る必要があると思ひます。今申した事は皆日本の家族制度に伴ふ弊であります、然しそれと共に、一方に捨て難い美點も、なか／＼に多いのでありますから、それ等を失はないで、其の悪い方面を改めて行くには、どうすればよいかと云ふ事が、殊に女子教育の上に大切な問題であらうと思はれます。

一〇、獨逸と英國の家族制度

の得失

曩にも申したやうに、獨逸の個人主義は、最も極端に個人を本位とするに對して、英國は一家族を本位として居ります。然し利害はどちらにも伴ふのです。

獨逸は個人本位でありますから一方から云ふと、下宿をするにしても非常に樂であります。間を借りると其の一室は、借りた人の占有になつて決して他人は入れない。であるから用事がなければ三日でも四日も他人と會はないで居れます。英國ではさうはいかない。倫敦では間貸しと云ふのはなくて、食事と一緒にせなければならぬ。そして間は寢室だけを貸すので、而も其の寢室が家に比べて非常に貧しい、少しの裝飾も施してないばかりではなく、餘りに無雑作なのに、居るのも不快な程であります。何故さう云ふ風にしてあ

るかと申しますと、夕食が済んで寝る時にだけ其の室へ入るのであります。ベルリンでは室全體を貸すのですから、設備も十分に行き届いて居る。英國はこれに反對で、寢臺は穢いけれども、その代りに食堂や主人の居る間が非常に立派に飾つてある、何故さう云ふ風にするかと云ひますと、食事の時間が来ると家内の者も下宿人も一緒に食堂へ集つて、いろいろな話をしながら夕食を終えるすると今度は主人の室へ行つて、一緒に面白く遊ぶ、其處にはピアノやヴァイオリンなどの設備も出来て居ります、詰り下宿人は其處へ伺つて御挨拶をして、子供にもいろいろな話を聞かせるかうして十時頃迄も遊んで、それから自分の寢室へ引き下ると云ふ風になつて居るのであります。私も最初はベルリンと同様のやうに心得て夕食後は直ぐに寢室へ入つて、不快なのを忍んで居りますと、同宿の獨逸人がこれを注意して呉れたので、次に其の室へ行つて見ますと、成る程、食

二二
堂よりも、もつと應接間の方が綺麗で、面白い。そして皆が集つて話をしますから従つて語學を覺える機會も澤山にあります。これは倫敦でも、下宿人を置く位ですから無論中以下の家庭であります、其れ以上の家庭は知る事は出来ませす、又同じ中流でも家庭に依つて、幾分の相違はありますけれども、一般に斯ういふ傾があつたやうです。此の獨逸と英國との家庭を比較しますと勉強をするには獨逸の方が都合がよく、家族制度としては倫敦の方が面白と思ひます、詰り人として教育を受けるには倫敦の方が遙に優つて居ります。若し子供を一人獨逸のやうな家庭に下宿させて置きましたならば、どんな風になるか知れないのであります。

一一、英國の女は獨逸よりも

高尚である

人としても、英國の方が獨逸に比べて、ズツと

高尚でありませぬ。下宿のお内儀さんと申しましたもそれには、もつたいない位に立派なレデーで、娘でも立派なお嬢さんであります。獨逸ではさうは行きませぬ。表面のお世辭は上手で、チヨツと道を聞いても、汽車に乗つて居ても非常に人づきがいので、獨逸から英國へ行きますと、初めは非常に不快な感じをする程に違つて居ります。然し場合によると、貴方の月収が幾らで、着物が幾ら掛つたかと云ふやうな事迄も、ともすると問ひ兼ねない、英國ではこれがないのであります言葉でも非常に綺麗で、總てに品格が高いのです。殊に私の居た家のお内儀さんは、私等の發音を正して呉れる。そして自分は極く正しい發音をして居る、處が獨逸では斯う云ふ事は逆も望まれません。

斯う云ふ風に、獨逸は獨逸、英國は英國だけにそれ／＼長所を持つて居るのであります。吾々日本人が此の兩者のどう云ふ點を學ばねばならぬか

と云ふ事は、皆様のお考に任せて置くことに致します。

一、獨逸に於ける女子職業學校

最後に申して置きたいと思ふのは、女子の職業教育に就いての獨逸の有様であります。彼の地では此の教育が非常に發達して居るのであります。日本では一通りの常識さへ授ければ、もう普通教育の任は終つたものゝやうに考へられて居りますけれども、獨逸では小學校を卒へて、更に一通の職業教育を受けなければ、普通教育が終らないのであります。先づ一年或は二年の工業學校があつて、一年の方を出た者は普通の職工になり、二年の方を出た者はマスターになる資格があつて、其の上は専門學校と云ふやうになつて居ります。若し此の種の學校に入る事が出来ない子弟は、小學校卒業後、一年の補習教育を受け、義務があらります。此の學校は一週間に三日授業をする。小學校を卒業すると女は賣子、男は大工と云ふやう

に、それ／＼職に就きますから、其の間に一週間六時間だけ、義務として學校へ出す。此處では手紙を書いたり算術を習つたりすると共に、職業の教育も受けるのです。女はタイプライターであるとか、速記であるとか云ふやうなものであります。小學校を卒業して職に就く時に、先づ此の時間を見積つて就職の契約をする。そして此の學校を卒業すると直ぐに普通の人と同様に職に就くのです。これをせないと普通教育が終らないのであります。高等女學校を出た者でも、大學へ行ける人は別として、其の他は別に一年の補習教育を受けるのが普通であります。

要するに、斯う云ふ風にして、努めて子弟に自活の道を立て、やると共に、成るべく、遊ぶ時間を餘分に與へないやうにする。さうすれば従つて善くない事を覺える機會も少くなる譯であります。これ等も日本の教育の上に、幾分考へを及ぼす必要があらうと思ふのであります。大變纏りのないお話を長時間を費しましたが、これで今日の講演を終へやうと思ひます。

(文責在記者)

感情の發表

佐賀縣師範學校長

川島庄一郎

一四

本誌の前號は特に有益に且つ面白く拜見せられました。其の中に一つ「これは大問題ではなからうか」と思はれた事がありますから、例の兀々した筆で一吋投書して諸君と共に研究して見たいと思ひます。

最初の菅原君の御議論と最後の倉橋君の御意見とは誠に面白いコントラストかと考へます。菅原君は感情をありのまゝに發表するがよいといふ御意見、倉橋君は實際上感情の發表を抑へねばならぬ事を暗示せられて居る様に讀まれましたが、果してそれでよろしいのでせうか。

感情は正直に發表すべきものか、さすべきものか、將た寧ろ抑へべきものかといふ事に就ては實は少々迷うて居るのでございまして、多年思を潜めて居ますけれど尙ほハッキリと解決しかねて居

るのであります。

感情を正直に發表する方の利益と致しましては、
 様の育方では人は正直で友愛的で扱ひやすい人
 にならうと思ひます。しかしその弊害も亦澤山あ
 りますまいか。感情をたやすう發表する習慣をな
 しますと、菅原君も言はれた通り、「自分の感情を
 直ぐ外部へ現して仕まうから後にのこるものが少
 くなる」ものですから、尤も、陰鬱でも爆發の危
 険ある人物でもなくなりませう、其の代り、とか
 く動力の缺けた、淺しな人間になりはすまいか。
 御示しになつたゲーテの例で見ましても、彼が容
 易く感情を發表しなかつた御蔭で其の偉大な詩歌
 が出來たのではなからうか。鬱積した感情が惡事
 に溢出しては誠に困りますが、しかし、鬱積した
 感情がなくてはとかく動力の足らぬ器械の様なも
 ので、善事も實現はむづかしい様になりはすまい
 か、教育に若し多少の力があるものとすれば、ど
 うか感情はなるだけ鬱積させてしかもそれを悉

く善に發動さす様にあらせたいと思ひます。

我が國民性は「言擧せぬ國」と申しまして、自
 分の朗々たる明き心で他の心を讀む方であるかと
 思ひます。「私は君を愛して居ます」杯といふが
 如きは、之はどこかの流儀でありまして、日本の
 本來の流儀は「愛して居るか居ないかは事實を見
 て汝の心に問へ」とかう申す方であります。流行
 語で申せば不言實行で、佛教に引あつれば大乘的
 で、もありませうか。この氣風から申すと、言葉
 や顔色に發表するのは假の發表で淺々しい事、眞
 の發表は事實に於てすべきものとなるかと思はれ
 ます、若しさうであれば感情の發表を一概に善し
 とする事は延いては國民性を變更する事にもなり
 まして、過ぎし戦役に於て毎々聞受けた様な、捕
 虜にでもならうものなら、オイ／＼聲を擧げて泣
 き、「命ばかりは……」と哀訴する様にもならうか
 と思ひまして、どうやらイヤナ事に感じます私は
 男は勿論、女でも、凡そ元服してから後は「決し

て泣かぬしを本則として、若し泣かざるを得ない時はなるだけ隠して泣く様にありたいと思ひます。若しそれでよいものとすれば、子供がたやすく感情を發表するのは唯子供として恕しておくべきまでい、決して教養の目的ではなからう、目的はヤハリ泣かぬ様にならせる方にあらうと考へます。」

感情を容易に發表する人は、他から見ますと、何時でもその感情のパロメーターを言葉や眼色顔色杯にかき出してあるのでありますから、安全瓣のついで居る汽關同様、先づ安心して扱ふ事の出来る人物で、その點から申すと如何にも倫理的で結構であります。さりながら時雨か木枯の様に吹いたり止んだり降つたり霽つたり東風かと思へば南風の様にありましては相手は随分ウルサイ事ではなからうかと思ひます。さうなると又非倫理的であります。そこで私は感情といふ中就て區別したいと思ひます。例之ば感謝の情とか尊敬の情とか又は困難に出遇うた時勇氣を奮ふ情とかは随

一言葉なれ眼色顔色さては身振態度杯に發表した

いものと思ひますが、恨、嫉、失望、悲しみ、輕蔑、忿怒杯の情は概して發表しないで、遂にはそれ等の情が餘りおこらぬ様に仕向けたいと考へます。感情を容易く發表する事はその一つの感情をば自然消えさすものでありますけれども又、くつかへして其の感情を強くおこす原因にもなると思ひます、例之ば恐怖の感情の如きで見ますと、非常な蛇嫌ひの婦人でも、一度聲をも出さず、遁げもせずに押えらへる經驗を得たら、後々は餘程恐怖せぬ様になりませんが、啗しく騒ぐ癖がつきますと、ますます恐怖します。嘔ぐ様になると思ひます、怒、怨、嫉と皆同様であります。

それで私の結論はかういふのであります、感情の發表は子供には恕せねばならぬが大體として決して育てべきものでない、下手に育てると精神的でなくなりやすい若し育てるなら前記の感謝の情とか尊敬の情とかに限りたいた。かう申すので

あります。之は國民性情に關する重大な事項と思ひますから、多數幼兒を扱うて居られる諸君と共に十分に研究いたしたいと考へまして、申上げました。決して菅原君の圖書教育に關して彼此申す積でない事は幾重にも御推察を願ひます。

實は私の預つてゐる學校の女生徒は前々までは教員の告別式の時など式場で聲をあげて泣いたものでありますが、私は右の様の考から、「それは精神にとめ置いて、なるだけ聲には出さぬものといたして居ますが、果してどんなものでせう。

尙又小學校の女兒になりますと告別式のある朝杯「ア、私はいけなんだ、よいハンケチを忘れて來た、けふは告別式で泣く筈でしたのに泣かなくなりました」と之は實際あつた事であり

身體の成長と發達

東京府立女子師範學校附屬小學校主事

日 田 權 一

一、身體の成長の意義

吾々の身體の成長及び發達と云ふ事は、別々に現はれる譯ではないのでありますから普通には、成長と云ふ事と發達と云ふ事とを、一に見て居るのであります。然し子供の體の發育を研究する上には、此の二を別けて考へることが必要であらうと思ひます。先づ成長と云ふ事と、發育と云ふ事との意味を申上げて置いて、其處から話を進めて行き度いと思ひます。

先づ、成長と云ふ事を、唯、外見上からのみ云ふ場合には、身體の各部分々々が増大して行く事でありませう。例へば、丈けが高くなる、大きが太くなる、従つて各部分の全體である處の、全身の太さや、形狀に幾分の變化が起つて來ます。これを云ふのであります。

それでは何故、斯う云ふ現象が起きるかと言ふ原因を申しますと、それには二の原因があります。第一は成長と云ふ事は、吾々の身體を組織して居る處の細胞が、分裂作用に依つて、其の數が増加するからであります。胎兒が母體に於いて成長するのは、重に此の原因に依るものであります。第二の原因は、前の如くして分裂した各の細胞の容積が擴大すると云ふことであります。出生後の成長は、主としてこれに依るのであるといふことであります。

それで、十分に成長しきつた成人の體と、また未熟な子供の體とは、どう云ふ相違があるかと申しますと、これを成長と云ふ方面のみから見ればそれを組織して居る細胞の數は大體に於いて差はなくて、只各細胞の大きさが違ふのである。詰り子供の細胞は小さく、成人の細胞は大きいと云ふ譯であります。勿論、成人になると、細胞の數が増すことが、絶対にないかと云ふと、必ずしもさ

うではなく、幾分は分裂作用に依つても、成長するのでありますが、其の割合が非常に少くなるのです。

二、身體發達の意義

次に、身體の發達と云ふことは、何を意味するかと申しますと、これは外見上は、特に成長と云ふ事と異つた點はないのであります。全く此の二の區別が付かぬと申してもよろしいのであります。

然し詳細に見ますと、發達を遂げて居るものは身體が強健で、手でも、足でも、其他總の部分完全に發育して筋骨達ましく、そして總の動作が巧妙に出来る、詰り全身に故障のないことでもあります。これは只外から見ると、何處にあるかと云ひますと、これは細胞の性質に或る變化を起す爲めである。その一例を申しますと、運動をすると、身體の脂

脂肪が、筋肉質に變る。これ等が發達のひと考へてよろしいのであります、今一つは、各細胞が人間の或る目的に適ふやうに結合して來ると云ふ事であり、例へば、今一の鞭を投げると致しますと、其の目的の爲めには、これに必要な指尖の筋肉なり、腕の筋肉なり、其他全體の筋肉が皆同時に結合されて働く譯であります。さうすると筋肉の中にある各細胞が、この鞭を投げると云ふ事に都合のよいやうに結合せられ調和せられて行くのであります。これが發達の一原因であります。其他、腦の中樞の各部分の連絡なり、結合なりが、人間の活動に都合のい、やうに結合して行く事であり、あります。

三、成長の一般的法則

これ、吾々の身體の成長と發達の、大體の意義を申し述べましたから、進んで成長と發達に就いての一般的法則を少しく説明致します。

先づ、吾々の身體の絶對の大きさ、即ち、どれだけが人間として成長し得る最上の大きさであるか。此の標準は何に依つて決する事が出来るかと申します。

(一) これは總て生物の種族々で絶對の大きさが略ぼ定つて居るのである、即ち人類といふ種族には、其の成長し得る一定の大きさが決つて居て、それ以上は大きくならないのであります。そしてその絶對の大きさに到達する間には、その成長の速度は或る時は可成り早く、或る時は緩慢で、而も一定の大きさに達してしまふと、全く止るものである。

それでは、發育の速度は一番早い時は何時かと申しますと、年齢と、身體の成長して行く速度とを考へて見ると、これは生れぬ前即ち母の胎内に居つて、成長する間が最も早いのであります。或る學者の言に依ると、生れて落ちたばかりの嬰兒を、人間の始めに細胞即ち受胎した時の細胞に比べると、五百萬倍もあると云ふ事である。さうす

ると此の間は非常な速度で成長するものと云はなければならぬ。それから生後一年間は尙速で殆んど三倍の成長をする。其の後三四年間は可成りの速度で、成長を續けて行くけれども、然しだんだんと其の速度が減じて行つて仕まう。十一、二年後になると再び、俄に増加率を増して行く。此の時期は女の方が男よりも一二年早く始まり、そして又一、二年早く終へるのであります。これは大體十四五歳頃まであります。それから亦だんだんと増加率が減じて行つて、女は廿歳頃で、全く成長が止つて仕まう、男の方は廿五歳位迄は僅に續けて行くけれども、それより先きはないのであります。

(二) 先きに、身體の絶對の大きは、其の種族に依つて定ると申しましたが、同一種の間にも尙多くの大小の異がある。これは主として何によるのかと、更らに進んで調べて見ると、人間に就いては知れませぬけれども、蛙に就いて實驗された結

果によると、受胎時期の一番最初の細胞の基本數に依つて、將來發達する割合が決るさうであります。今受精した蛙の卵を取つて来て、それを二分若しくは三分して、それを人工的に孵化しますと、それぞれ頭もあり足もあり完全な蛙が出来上るさうです。然し其の十分成長した大きを見ると、二分したものは二分の一、三分したものは三分の一の大きになるさうであります。

(三) 一般に體の長さが、速なる成長をなして居る時には、其の太さの發育が緩慢で、今度太さが早く發育して居る時には、長さの方の發育が緩慢であります。言ひ換れば、長さと太さとは、同時に發育するものでなくて、別々に成長する傾きがある。そして多くの場合には、長さの方が先に成長を始め、太さは後になる傾きがあります。これは人間に就いても觀察が出来ますけれども、一番よく判るのは筍である、筍の成長は、初めは丈けの方が先に成長する爲めに、初めはず

つと伸びた時は竹の身は非常に薄く、遂に或程度まで、丈けが伸びますと段々身の厚さが増して来る、勿論それから後になつて丈が再び成長する事は、云ふ迄もない事でありませう。子供の發育も大體これと同様であります。先づ身長が伸びて次に肉がつき、次に骨が太くなる。

(四) そして、これを一年中の四季に就いて考へると、春から夏にかけて、身長の方が増加し、秋から冬にかけて、太みが増し行く傾向があります。これは學校で春秋二期に、同一の子供について身體検査を行ふ實驗に於ても、明らかに證明されます。

(五) 次に、身體の各部分は、同様の割合で成長するものであるかと云ふと、これは部分々々で増加率が違ふものである。然し其の増加率が違つて居ても、體全體の釣合を失ふに至らないと云ふ事が、一般の原則であります。身體各部が甚しく偏頗なる發達をなして、全身の甚しく不釣合を

生するやうな事があれば、それは普通の狀態とは申されないのです、其の場合には、十分注意せなければならぬのです。

四、身體の成長と健康との關係

これに就いても、いろいろの問題が研究されて居ります。今其の大體を申すと、健康な人と云ふ事は正常なる自然的の成長をなして居ると云ふ事を意味して居るのであります。之れに反して、不健康とは、(一) 過渡に早過ぎるとか晚過ぎるとか云ふやうな不自然な成長をする場合、(二) 身體の各部分が自然の釣合を以て成長せないので、不釣合の成長をする場合、(三) 成長のみして、これに發達の伴はない、場合をいふのであります。

これ等は健康と、不健康との著しい相違點であります、これに就いて大切な事柄は、兒童の發情期に就いてあります。此の期は非常な速度

で成長する時期であるから、この時期を人生の最も危険なる時期と論じて居る論者すらもある位です、何故此の機が危険なのかと云ふ點では、いろいろ人に依つて議論が違ひますが、或る人は、發情期は非常に成長が速いから體の弱い時である、そこで身體を注意することが一番大切である。この時に學校で、過度に課業を科すと云ふ事は甚だよくない。寧ろ十分に静養を興へる方がよいと云つて居る人も尠くはない。然しこれは餘り考へ過ぎした見方でなからうかと思ふのです、元來此の時期は、成長の他の時期よりも急劇なのが、自然であるから、それ以上に過急に成長する場合は別であるが、さうでない場合には、寧ろ元氣のよい活動の時期であるから、それ相當に課業を興へ運動を勧め迅速なる成長に伴ふに十分なる發達を以てして、先きに云つた第三番目の、不健康の情態に陥らないやうに、注意する事が大切であらうと思ひます。寧ろ此の時機に餘分の休養を興へて置

くと云ふ事は、精神的にも身體の上にも、それだけ、ゆるみを興へすきを作ると云ふ事になるのですから、反つてよくない結果になる恐れがある。元來精神的にも身體的にも、すきのないものが最も強健であるのであります、

五、身體の成長を規定する要素

曩きにも申したやうに、身體の成長は主として先天的、即ち遺傳に依つて定まるものでありますけれども、その他に後天的にも成長を助けて行く要素のある事を知らなければなりません。即ち(一)營養、(二)身心の休眠、(三)運動の如きはそれでありませぬ。然し此の後天的の要素は前に申したやうな先天的に成長する割合に影響をすることがないのであります。

そして、後天的の要素の中で營養と云ふ事が、成長の一番主要素になつて居ります。然し營養に

依つて、成長に及ぼす効果は、幼少の時代に於いて最も甚しいのです、即ち母の胎内に居る間、生れてから二三ヶ年の間であつて、少くとも子供が學校に入るやうになる二三年前迄、一番大切なのであります。無論其の後と雖も、營養が成長を助けて行く事は、云ふ迄もない事で、たゞ其の時時が、最も多く成長を助ける度合が多く隨てこの時期の營養不良は一生の成長に影響するものであるといふことを申し上げて置きたい。

休眠——次に後天的要素の一たる休眠、これも非常に大切で、何故これが必要なのかと云ふと、吾々が營養で蓄へられた活力は、日々の活動でこれを消費して行くもので、休眠は其の活動を止めて、貯へられた營養分の消費を大に減少して行くものであります。斯くして、初めて成長が出来るのである。これを言ひ換へて見ると、成長と云ふ事は、營養で蓄へた力を日々の仕事で、悉く使ひ果さないで、毎日幾らかを残して行く、それ

が溜つて、成長を助けるのである。さうすれば、適當の休眠をとらないで、消費ばかり續けて居ると、成長の見込がなくなつて來る譯であります。これは獨り身體のみではなく、精神の上にも同様である。心の心配は勞働と等しく、身體の活力を消費する事が甚しいものであるから、從つて成長を害する點は甚しいのである。この點は教育上、餘程注意すべき事柄であります。

運動——これも、或る程度迄は成長を助けるものであるけれども、然しそれは間接の影響で、寧ろ運動は活力を消費せしめるものであります。たゞ適當の運動をとれば、運動で消費して行く營養の消費が適當になつて來ますから、消費した營養を恢復的に増加して行くことが出来るのであります。詰り消費した分より以上の活力が生じて來る譯で、それだけ成長を助けて行くのです。然しこれは間接の効果で、運動の主たる目的としては、寧ろ身體の發達を助けて行く事でありませう。

其他、氣候であるとか、疾病であるとかも、成長に影響する事は勿論でありますが、大體以上の三つが後天的成長の最も主要素であります。

六、身體の發達

身體の發達とは、どう云ふ事を意味するかと云ふ事は、先きにも申述べて置きました。更に詳しく云ひますと、大い三つに分けることが出来ます。

第一、身體の發達及び成長の經過と健康状態、これは先きも申したやうに、身體の健康状態には、成長と發達とが伴つて行く事が、一番大切であります。若し成長ばかりして、これに伴ふ發達が遅れるとか、或は身體の或る部分だけを極度に使用するとか、其他或る部分が非常に發達するとかして、身體の一般の釣合を破ることがあると、それが即ち不健康の状態である、例へば非常な運動家は、一見した處では非常に筋骨が逞しいと云

ふ人が、突然病に罹つて、あんな立派な體格の人が病氣になると云ふやうに怪まれるのが、普通に見る處であるが、これが即ち身體の一部分だけが餘計に發達するから、不釣合が起るのであります。まいか、要するに急速なる成長をして居る時にはそれに必要な發達が伴ふ事が必要であります。若し之れが出来なければ、出来るだけ早く續くやうに工夫しなければならぬのです。發情期の如きはそれでありませう。

第二、運動と腦髓の發達

先づ腦の成長と云ふ點を申しますと、これは滿六歳が成長の最頂點であります。其の後は成長の割合が非常に減じて来る。そして春情發動期後になると、成長が全く止つて仕まう、それから後は成長せずして發達するのである。これを筋肉の發育に比すると非常な差が見出される。即ち筋肉の成長は廿歳乃至廿五歳迄もあるのに、腦は僅かに六歳である、之れに反して腦の發達は非常に晩く迄

あつて、卅三、四歳頃まで續くのであります。これはつまり人間の腦の作用と云ふものは、益々發達して行くものであると云ふ事を意味して居るのである。

それでは、腦髓を發達させて行くものは、何であるかと云ふと、それは運動であります。然し運動に依つて腦髓が發達するのは、細胞が變化する爲めではなく、各細胞間の結合が適當に出来る爲であります。

一般に精神が發達する、即ち腦體が發達すると云ふ事は、何を意味するかと云ふと、これを生理的に申すと、各細胞の質が變化すると云ふ事ではなしに、細胞の相互に結合が出来る、ある一目的を達するのに都合のいゝやうになるのである。即ち神經の各部分が其の目的に向つて共同すると云ふ事になる。ホーン氏は其の著「教育哲學」の中に、吾々が教育に依つて腦を發達することが出来るのは四つの原因があると云つて居ります、

それは、

(一) 腦の神經組織を發展せしめて、これを強壯にする事。

(二) 神經の既成の結合を一層深くし、又更に新しい結合を加ふる事。

(三) 未だ覺醒せざる神經細胞を啓發する事。

(四) 習慣を作り、精神を解放して、新しい行動と新思考とに向けしむる事。例へば、吾々が

道を歩むことに慣れてしまふと、餘り神經を之れに用ひないで、自然的に歩むと云ふ動作が出来る。それだけ精神が解放された譯であり。そして其の解放された神經を他の用に立つやうにする。歩き／＼讀書する事の出来るやうになる

のもこれでありませう。

此の點は、私の前に申し漏れた點を補ふ事が出来るやうと思ひます。

第三 練習に依る筋肉發達の法則
今迄は、身體の發達と云ふ事には、運動が大切

であるとして申しましたが、進んで、運動に依つて身體が發達して行くには、どう云ふ法則があるか、これを二三申述べやうと思ひます。

(一) 筋肉の能力と云ふ事は、或る運動に關與する總の筋肉の調和的動作と云ふ事である例へば一の仕事を練習して、筋肉を發達せしめると云ふ事は、其の仕事の主要運動の爲めに、全體の筋肉を調和的に共同せしめるやうにすると云ふ事でありませぬ、ベースボールを投げる時に、手と指だけが働くのではなくて、體全體の筋肉が投げると云ふ主要運動に協力する爲めである、練習と云ふ事は、即ち此の協力和と云ふ作用を容易ならしむるの目的である。若しさうではなしに、單に手や指が尖さばかりが働くものだとすると、體の強い者は何時でも弱い者に勝たなければならぬ譯であるけれども、角力にしても柔道にしても又其他の競争にしても、練習の出來て居るものは體が細く弱々しくても筋骨の逞しき剛のものに勝つ事が往々に

ある、これは取りも直さず、體全體の筋肉を其技術の主要目的に協力せしめる事に長じて居る爲めであります。

これは學校の技能教育の上にも、大切な事柄であつて、字を書くにしても、單に手尖さだけを使ふやうな事ではなしに、體全體をそれに集中するやうにする事が必要である、詰り、體全體の姿勢を正確にして、字を書くときと云ふ動作に適當なやうにする事でありませぬ、技能教授に於て姿勢、態度をやかましく云つて矯正するのは全くこれが爲めでありませぬ、

(二) 次に、筋肉運動の發達は、粗大なるものから精巧なるものに及ぶ傾きがある、これを精神の上にかんがへると、粗大の觀念が精巧の觀念に進むと同様に、運動の練習に於ても、初めは非常に精巧な運動を先きにやらせると云ふ事は、決して策の得たものではないのです、手で云ふと腕の運動の發達して、それから指尖さの運動が出來るやう

になる。故に腕の十分發達せないので、指尖の運動を起すのは反對であると云はなければならぬ。書き方の練習でも、初めに小さな文字を書いて、それから大きな字を書くこと云ふ事は可けないので、大字から小字に及ぼして行く事は、此の點からも必要でありませぬ。

幼稚園の恩物も、餘り細かなものを與へては可くないと云ふ説も一部はこの理由から來て居るのである、その他、餘りに精細なる運動は子供の柔かな腦力を刺戟し過ぎると云ふ弊害を伴ふといふことでもあります。

(三) それから、身體の一部分の練習は、これと相對する一部分をも練習して、發達させて行く傾がある、例へば右の手を練習すると、右だけが發達するやうな事がなしに、同時に左の手も自然と幾分か發達するものである。これを交叉教育と申して居りますが。これは恐う云ふ原因かと云ふと、兩手の細胞が腦中樞に集つて、此處に適當

な結合を遂げて居る爲めである。これは偶々吾々が日常生活に於て特殊の職業的運動によりて、偏頗なる發達を幾分か防ぐことが出來て好都合と思ひませぬ。

これで、吾々人間の身體は、どう云ふ風にして發育して行くものであるか、成長と發達の區別、及び其の關係に就いて、大體の説明を終つたのであります。(完) (文責在記者)

兵 隊 さ ん

1	0	2	5	0			
ラ	ラ	ラ	ラ	ラ			
と	と	と	と	と			
3	3	1	2	0			
ラ	ラ	ラ	ラ	ラ			
と	と	と	と	と			
	2	5	3	3	1		
	ラ	ラ	ラ	ラ	ハ		
	ッ	マ	フ	ク	バ		
	ウ	に	の	た			
	ラ	7	1	0			
	お	イ	サ	ン			
		5					
		タ					
		セ					
		イ					
		ヘ					
		た					

ト調 2/4

子供の叱りやう

羽仁もと子

一、叱る時の親の心持と

子供のとりやう

斯う云ふ事は、皆様の十分御解りになつて居られること、思ひますので、更めて申上げる程のこともありまますまいけれども、然し子を持つて知る親の恩と云ふことは、古しからの訓であります。實際に自分が子供を持つて、親の地位に立つて見なければ、どうしても氣の附かないことが澤山にあるのであります、その中でも殊に子供が親の言ひ付けを聞き入れなかつたり、善くないことをしたりした時に、叱られる其の言葉を、丁度自分の敵のやうに考へて、自分の爲めを思ふて、言つて下さるのだと云ふことは、なか／＼子供には氣の附かないものであります。これは成人ですらも、自分の爲めを思ふて注告をして下さる方の言葉を

好意を持つて受け入れる事が困難なものでありますから、まして子供には無理からぬ事なのです。實際に自分が親になつて、子供を叱らなければならぬ立場に立つて見ますと、成る程と、自分を叱つて下さつた御母さんの心持ちも、十分に考へるやうになつて來ますけれども、子供の間には、どうしても、それが出來ないものであります。然し、それが出來ないのだと申して、何時迄もその儘に捨て、置いてよろしいものでせうか、子供の時は解らないもので、今に成人になつて親の立場に立つやうになると、自然と解つて來るものであるから、その理解がつく迄、その儘にして置く外に、しやうのないものでせうか、若し親の躰け方で幾分それを正して行く事が出來れば、出來るだけ其の刹那々に子供の行を正して行く、と云ふ事が、大切でなからうかと思はれます、

二、子供は何故親の小言に

反感を起すか

私の考へますには、親が子供を叱つた時に、子供の反感を買ふと否とは、幾分親の叱りやう如何にあるのではありますまいか、例へて申しますと子供が善くないことをしました時に、それを懲らさうとして、そんな事をするとか、お父さんに言ひ付けますとか、坊やを置いて他方へ行つて仕舞いますとか。おばけが来て、連れて行くとか、其の他いろ／＼と子供の嫌がるやうな事を云つて子供を怖がらすやうな方法が、一般の家庭に行はれて居るやうであります。然しさう云ふ叱りやうは、餘り子供に力ある影響を興へないで、寧ろ反感を興へる方が多いのであらうと思ひます。勿論叱る方の親の心持ちは、子供の爲めになるやうに、どうかして子供を善い人にしやうと云ふ考へから、さう云ふ小言も出るのですが、子供には其の心持ちが通せないで、反つて、自分がお父さんに叱られればいゝ、おばけが来て連れて行けばいゝ。善い子にならなければいゝ、と云ふやうな、自分と

反對の立場に立つて、自分を叱るものゝやうに考へる。そこから親の小言に對する反感が子供の心に起きて來るのではなからうかと思ひます。

三、 どうすれば小言を有効に

する事が出来るか

それでは、どうすれば子供に、さう云ふ反感を惹き起させないで、親の本當の心持ちを通せしめて、子供の行を正して行く事が出來やうかと申しますと、それは子供の性質に依つて必ずしも一様には行きますまいけれども、私の考へでは、それは、子供を叱る言葉なり、叱る時の母の態度なりに、非常な關係があると思ひます。で、子供を叱るには、今申したやうな、無暗に子供を怖がらせるやうな言葉を使はないで、當り前に、お前の斯う云ふ行が善くない事であるから、御愼みなさいと、十分子供の味方になつて戒める。そして猶、聞かない時には、お母さんは、これ程お前の

爲めを思ふから、斯う云ふ小言も云ふのである。どうにかしてお前を善い子供にし度いからである。と云ふ事を、温い情味を持つて、子供に云つて聞かせるのであります。詰り子供の情に訴へるのであります。決して言ひ度くて小言を云ふのではない、其の儘にして置くと、何時迄経つても、善い子になれないから、小言も云ふのであり、お母さんはこれ程、お前の爲めを思ふのだから、今後十分慎まなければなりません。と云ふやうに、自分と子供とが一の立場に立つて、意見をするのであります、言ひ換れば、子供の不利益になるやうなことがあればよいと云ふ事を祈つて居るやうな、言葉や態度を使はない事であり、先きに申したやうな、おばけが来るとか、お父さんに叱られるとか云ふやうな、子供をおどかす叱りやうや、若しくは、冷かな理智の判断に訴へるやうな小言の仕方は、感情の激しい子供には、決して有益なものではなからうと思ひます。これは是

非とも情の方から入つて行く事が必要であらうと思ひます。

四、強い言葉で叱る時の心持

今一つは、初めて御子さんを御持ちになつた、若い方々から、能く聞く事柄であります、子供が自分の言ひ附けを聞かない時に、ともすると、語氣の強い言葉が出るので、自分ではよくない事だと思つて居ましても、思はず強い言葉が出て來るので、それは自分の心掛けの至らない爲めである。自分の修養が足りない爲めであるやうに思つて、自ら恥ぢて居ります、と云ふ事であり、然しこれは總の場合に悪い事だとは思はれませぬ。成る程、自分の心掛けの至らない爲めに、自分の短氣である爲めに、強い言葉を使はずとも濟む處へ、無暗と粗い言葉で子供を叱るのは無論よくない事でありませぬけれども、然し、子供には是非強い言葉で叱らなければならぬ、場合も往々あるので

あります。例へて申しますと、前に申したやうな子供の情に訴へるやうな叱り方で、幾度もく静に言ひ聞かせて居ましても、矢張り其の行が直らないと云ふ場合には、時として強い言葉で叱る必要が起きて來ます、例へば學校から歸ると、直ぐに本や袴を規定の場所に始末をして、それからお遊ひなさいと云ふ事を、幾度言ひ附けても聞き入れないで、すん／＼遊びに出ると申したやうな場合は、さう何時迄も優しい叱りやうばかり續けて居る譯には行きませぬ。さう云ふ場合には、強い言葉を與へて、親としての威嚴も幾分見せて置くことが大切であらうと思ひます。然し此の場合に注意すべき事は、其の言葉を出來るだけ短く、そして力強くする事であり、例へば寸鐵人を刺とでも申すやうに子供の心を引き締めて行く事が必要であります。

五、體罰はどう云ふ時に必要か

それから、體罰でありますが、これも與へないで済めば、これに越したことはありませぬけれど、これも是非必要な場合が往々起きて來るものであります。例へば、前に申したやうにいろ／＼な方法で意見をしましても、どうしても聞き入れないで、悪い行が段々と長じて行くと云ふやうな時には、幾分の體罰も必要になつて來ます。これは幼稚園や、小學校では、さう云ふ必要の起る場合は、毛頭ありませんが、家庭ではどうしても、これがあるので御座います。此の點は幼稚園で子供を御扱になつて居られる方々の御覽になる子供と、實際に母となつて見る子供と、少し違ふ處があるやうに思ひます。それは幼稚園や小學校では幾ら子供に打ち解けて、十分の親しみや、情愛を持つて接しましたが、子供の頭には、矢張り先生とか、學校とか云ふ觀念の袂まつて居りますから、どうしても他所ゆきの行儀が出るからであります。處が家庭では、十分に氣を許して、自由

な心になりましますから、どうしても我がまゝが出て参るので御座います。

勿論、子供ばかりではなく、成人に爲りましても、家庭は吾々の唯一な安息所でありましますから、家庭で他所行きの行儀を子供に強ゆるやうな事があつてはなりません。十分子供が氣を許して、出来るだけ自由に遊び得るやうにして、置かねばなりません。然しそれが極端に行つて、御母さんの云ひ付けも聞かなかつたり、善くない遊び方をして、それを幾度止めても聞かないと云ふ場合には、今度は一段上の方法で、それを叱る必要が起つて参ります。

六、どうすれば體罰の度を

減ずる事が出来るか

それでは、此處にいよく體罰の必要が、起つて來るか申しますと、私の考へではいよく體罰と云ふ迄には、もう一の他の方法がなからう

かと思ひます。それは體罰の豫告を子供に與へるので御座います。詰り、お前に幾ら云つて聞かせても、御母さんの云ひ付けを守らないと、仕まひに、體罰を與へても守るやうにせなければならぬから、さう云ふことのないやうに御慎しみなさい、今度聞かなければ、いよく體罰を加へますから、と云ふやうにして、尙必要な場合には、體罰を受けるやうな事があつては、大變な恥であることと云ふことを説いて、其處に子供の反省心を惹き起すと同時に、幾分名譽を重んぜしめるやうにするのであります。それでも尙聞き入れない子供は、致し方ありませんけれども、少くともなぐられたり、押入れへ入れられたりする事を恥と思ふ事の出来る子供は、そこ迄行けば、大てい聞き入れるものであります。又それを聞き入れるやうにする位は、平常の躰で出来なければならぬのであります。

若し此處で子供の不從順を止めて行くことが出

来れば、それだけ體罰を與へる必要が減じて行く譯であります、勿論子供の性質に依つては、さう云ふ叱りやうもする必要のない子供もありますけれども中には、なか／＼暴い性質の子供もあり殊に男の子には、それが多いのであります。さう云ふ子供に對しても、無暗に怖がらしたり、親の短氣から暴い言葉を使つたり、考へなく子供の頭へ手を上げるやうな事をしないで、それは極く心要な場合だけに止めて置いて、而も、それをする時は一度で十分聞き入れるやうにせなければならぬと思ひます。強い叱りやうを再び續けなければならぬことになりますと、それだけ叱りやうの程度が高くなつて來る譯でありまして、遂には、體罰が普通の叱りやうになつて仕まうやうな事がなるとも云へないと思ふのであります、以上は家庭の育児上に心付いたまゝを申し上げた譯で御座います。(文責在記者)

哺乳兒榮養法

本間辰藏

哺乳兒期即ち生後一年間は尤も死亡數の多き時期でありまして、其原因は大部分胃腸の病であります、然らば胃腸の病の原因は何かと申しますと、食物即ち乳汁の良否と、授乳法の不適當とにより、ます、依て二三の書物を參考として、哺乳兒營養法に就て少しく申上る事と致します。

扱て小兒が初めて生れますと、三つの點に於て大變化を來します。即ち

一、哺乳 母の胎内に居る時は胎兒の營養分は母の血液より受け胃腸は働く必要もなかつたものが生後は今迄母子の血液交通道でありました臍帶が切られて、營養分の供給を斷たれます。そこで口より營養分即ち乳汁を飲んで消化しなければならぬ事になります。

二、體溫維持 母の胎内に居る時は常に一定の溫

度の内に安居してゐたものが生れると忽ち外界の冷い空気に晒されて冷却されます故に、自分の體温を維持する爲め、營養分をとり夫を酸化して温を發生しなければなりません殊に小兒は大人の割合に身體の表面が廣いものですから蒸發が劇しく從つて體温が冷却し易い。従つて營養分を比較的澤山取らなければなりません。

一、呼吸 母の胎内にある時は呼吸といふものはありません。生れると直ぐ呼吸をはじめ酸素を取り炭酸を呼出します。

以上述べました通り、これ迄より著しき變化を來すばかりでなく身體の割合に營養物を澤山とりますから營養法と體温維持は尤も注意を要します。

申す迄もなく哺乳兒の必要缺くべからざる食物は母乳たる事は古も今も洋の東西を問はず經驗上明瞭なる事實でありまして、統計學上は勿論生物學や醫學上から申しても學問が進歩すればす

る程母乳の優秀なる事が愈々證明されます。

夫故第一に人乳營養法に就て述べ、第二に母乳で營養不可能の場合を述べ終りに人工營養(即ち牛乳)を述べます。

母乳營養法

先づ小兒が生れますと直ちに睡眠しますから半日乃至一日間其儘にして置きます。泣けば渴に對して蒸溜水又は煮沸水を少し甘くして與へます。

サツカリン砂糖等を加へます、又稀薄の番茶を與へても宜敷ございます。通常初め二十四時間は乳は與へませぬが母乳は與へても差支へはありませぬ、生後三四日間に八十多位(三百瓦)減るのは普通でありますから母乳と薄き番茶位で宜敷うございませぬが、若し夫れ以上減する様なれば、人工營養即ち牛乳を併せ與へます、但しこの場合でも小兒に母乳を飲ましめ分泌を促がさなければなりません。

四週間は吸はしてもどうしても分泌充分ませぬ。四五週間は混合營養即ち牛乳と人乳の兩方を養

ふ様にします。

若し小児が孱弱い爲め吸乳力弱く、その爲め乳汁分泌不十分のものは、乳母を傭ひ弱き小児には乳母の乳を飲ましめ、乳母の小児には母の乳を吸はしめ、分泌を促がしめるとよく分泌する様になります。そして弱き小児も乳母の乳の爲めに發育して強く吸ふ様になります。

エブスタインといふ人の言に母乳營養を適當に行へば乳兒の消化不良に罹る事は極めて稀で、小兒は規則通に發育し人を煩はす事なく、恰かも家に小兒の居るや居らぬやわからぬ如く靜なりと申しましたが實にその通りで、消化不良は多くは營養法の不適當によります。我國の風習で生後まぐりを與へる事の害は知れ渡つて居りますから述べませぬ。

小兒に乳を與へる時の注意は乳嘴を口へ入れる時鼻呼吸を妨げない様にせねばなりません。添乳しながら乳房で窒息死せしむる事は往々ある事です。

あります。

乳を與る時乳嘴の消毒は餘り心配するに及びませぬ。一旦煮沸したお湯で洗へば宜うございませぬ。營養を規則正しくするには乳を與へる回数を多過ぎぬ様注意せねばなりません。往々二時間毎に與へますが之は多過ぎます、凡そ健康の乳兒の胃は一時間半乃至二時間半で空虚になる事と、消化に際しては乳汁が胃に入る前に胃が全く空虚でなくはいけない事を知れば、頻回乳を與へる事の有害なる事は論を俟ちませぬ。

哺乳の回数は六回或は五回を適當と致ます假令
午前六時—十時—午後二時—六時—十時—午前
二時

尤も必しも規定に拘泥するには及びませぬ。睡眠中の如きは醒めるを俟つ方が宜うございませぬ。飲ませる時は満腹して睡眠する迄與ます。普通滿腹する迄には大凡十五分乃至二十分間かゝります。而して初めの五分間に大部分飲むものであります。

フエールと云ふ人の實驗によるに百九十二瓦の中
初め五分間に百十二瓦次の五分間に六十四瓦終の
五分間に十六瓦飲んだといふ事でありませぬ。

小兒が乳嘴を含み居るも吸はぬ様になり、只口内
で玩ひ居る時は取去らねばなりませぬ、小兒が乳
を飲で居る間はキエツ／＼と飲込む音がしますか
らわかりませぬ。小兒が乳嘴だけ吸ふて居る時は飲
込む音は聞えませぬ。

小兒があたりまへの時間だけ飲んでも満腹せぬ
時は、不満足のため泣きます。この時若し乳房
が空虚になり居れば乳汁の量の不足の證據であり
ます、飲みたる量は小兒の哺乳前と後の體重を測
れば其差でわかります。一方飲干して不足なれば
他の乳房につけますが、通常は一度に一方だけ飲
ませます。一度に兩方少しづゝ飲ませますれば兩
方とも充分飲盡されぬ爲め、乳汁鬱滞を起し、乳
汁の分泌が不足になる事があります。

一回の哺乳の分量は同一の小兒で同日の中で

も差はありますが、平均は大凡左の通りであります。

フエールと云ふ人の調査によれば平均一回量

生後第一週 凡二勺(四〇―五〇瓦)

同 二週 凡四勺(八〇―九〇瓦)

同 三―四週 五勺餘(八五―一一〇瓦)

同 五―八週 六勺餘(一一〇―一二〇瓦)

同 九―十二週 凡七勺(一二〇瓦)

同 十三―十四週 七勺餘(一四〇瓦)

同 十七―廿週 八勺餘(一五〇瓦)

同 廿一―廿四週 凡九勺(一六〇瓦)

日本人の小兒では瀬川博士が御自分の小兒に就
て測りしもの及京都の平井博士が乳兒の胃の容積
を測りしものがあります、大同小異ゆゑ略しま
す。

以上平均數を掲げましたが實際は一回に三百瓦
或は夫以上飲む小兒があります。而して胃の容積
より澤山飲みますが之れは乳が胃に入れば固まり

て水分すゐぶんと分わかれまして、水分すゐぶんはすぐ腸ちやうの方ほうへ行ゆきま
すから差支さしつかへありません。

カメルレル。フェール兩氏りやうしの調しらべた所ところによれば、
健康けんかう哺乳ほにゅう兒にの一日いちにちの哺乳のほにゅうりやう量りやうは（平均へいきん）左記さきの如ごと
くでありませぬ。

第一日 ○ 第二日 九十瓦 第三日 百九十

瓦 第四日 三百十瓦 第五日 三百五十瓦

第六日 三百九十瓦 第七日 四百七十瓦

第二週 五百瓦 第四週 六百瓦 第八週 八

百瓦 第十四週 八百五十瓦 第廿週 九百瓦

併しかし子こ供どもには大小だいきうがありませぬから近來きんらいは小兒こどもの
體重たいじゆうから略飲りやく量りやうを定さだめることになつて居をりませぬ。
即すなはち

三ヶ月迄は 體重二百五十瓦ニ付 凡およソ八勺

六ヶ月迄は 同 稍少量

九ヶ月迄は 同 六七勺

換言くわんげんすれば生後せいご第一週だいいしうは體重たいじゆうの五分ぶんの一、二ヶ
月げつより六ヶ月迄は體重たいじゆうの六分ぶんの一乃至七分ぶんの一。

夫それより以後いごは八分ぶんの一を適當てきたうと致いたします。
以上いじやう申上まをしあげた事ことを總括ひつくるめすれば要えうするに哺乳ほにゅう回數かいすうは
六回むいとし一回くわい十五分間位ふんかんごのみ飲のみませ一方ほうの乳ちを飲干のみほ
した後に他のたの乳房ちぶさへ移うつるといふにありませぬ先づ外觀ぐわいけん
上じやうかへり異常いじやうなければ飽あく迄飲までませて差支さしつかありません。

○子 守 唄

(若き父つくる)

おぢいちゃんにおばあちゃん
おぢいちゃんはやまへ
おばあちゃんぼざあへ。
もゝがながれた
そのもゝわつたれば
あかちゃんがつまらした。
わん／＼にきやつきや
けん／＼つれて
きびだんごこしらへて
おにがしまへいきました。

——『せんぞやまんぞ』の節——

子供の癖に就て

誠之小学校長 杉浦 恂太郎

子供は癖の付かぬやう成るべく性情を順良に且つ高尚に育てたきことはいづれの両親も希望する所でありますが實際に就て調べて見ますと多くの子供の中には種々な癖を持つものが少なくありません 試に擧げて見ますと、

(一)泣き癖のある子供

(二)因循な子供

(三)朋達に親しまぬ子供

(四)依頼心の強き子供

(五)表情に表裏のある子供

(六)怒り易き子供

(七)移り氣の多き子供

(八)自分勝手な多き子供

(九)出しやばり過ぎる子供

(一〇)理窟を言ふ子供

(一一)虚榮好きの子
(一二)物をかくす癖
(一三)虚言の子供

(一四)野鄙なまねをする子供

(一五)滑稽なまねをする子供

(一六)食物に好き嫌ひの多き子供

(一七)他人の事を聞きたがり又言ひたがる子供

(一八)嫉妬深き子供 (一九)人を羨む心の深き子供

(二〇)慘酷な癖のある子供

此の他まだ澤山ありますが以上の如き癖を其の儘放任して育てますと將來成長の後如何なる人になりませうか取り返しの出来ぬことであらうと思ひます、世に不良少年とか又は成長するに従つて親の心配を増す子女のあるのは早く之が矯正をしなければ結果と思ひます。勿論癖といふものは其の因つて来る所は單純なものではなく、おひ立ちの事情則境遇に基くものと、性來に因るものとあります、いづれも矯正し又は改めしむることの出来ぬものではないと考へますよし完全に出来ぬまでも努力を怠るべきものでありません、唯餘程

至難の業であると思ひます、さうして其の早ければ早き程効果の多きことは申までもないことであり、之が矯正の任に當るものは家庭、幼稚園及學校であることは勿論であります、則父母、保姆及教師が能く方針を一致し、相互に助け合つて従事することが肝要であります、前に舉げました事實の矯正方法に就て、聊鄙見を述べて諸賢の教を乞ひたいと考へます。

すべて子供を教育するには其の善い所と悪しき所とを常に能く調べて其の善い所は自信させて勵まし其の悪しき所は事情を詳にして改善に向ふやう適當の所置と方法を考へて無理の無きやうにしなければ効果を得ることは出来ぬものであります、然るに實際世間の子供を育てる様子を見ますと徒らに子供の悪しき所のみを責めて其の善い所は顧みぬ風が往々あります、それ故其の子供の癖を矯正しやうとしてかへつて其の性情を傷ふやうな事實を生じます子供は其の時々の思つきの所置

を施したのみでは決して教育することは出来ません、家庭、幼稚園、學校にては思ひを致すべき大切のこと、考へます。(つゞく)

○ 躰け方の問題 (一)

今年五歳の女兒、いままで買ひ喰ひなどの習慣は一度もない。またお小遣も與へません。或日のこと家庭で與へないお菓子を持つて居ますから、どうしたのかと聞きましたら、横町のお菓子屋の叔母さんに貰つたと答へました。早速其の駄菓子屋へ行つて調べて見ると、嬢ちゃんがいづもになく店のお菓子を呉れと仰せあつたから差上げましたといふ返事。尙よく前後の事情を調べて見ると、其の女兒の遊び友達がお小遣を以て買つて行つたのを見て、自分も欲しくなり、さういへば貰へるものと思ひ、呉れといつたのであるらしい。母親は勿論其の菓子屋へ代を拂ひますが、其の子に對しては如何なる處置をとつたが良いでせうか。

切り花の取扱

こむかひ

茲に切り花と題を出しましたのは、何となく、
 範圍が狭い様な心持が致しまして、たい切り花と
 云ふと、一寸卓の上の、一輪挿にするとか、又花
 束にして、髪に飾るとか、胸に裝ふとか、云ふ時
 の花に思はれますが、私の只今御紹介申上やうと
 思ひますのは、此の如き種類の花の事も、二三種
 ございませうが、之に加へて活け花の水揚法を書き
 連ねて見たいと存じますのでございませう。然し一
 寸お断を申上げて置きたいと存じますことは、
 今御紹介申上げますことは、悉く私が實驗致
 した譯でなく、中には随分、疑を抱いて居る事
 もございませうから、どうぞ皆様御ためし下さいま
 して、其結果を此紙上にて御披露願上げます。又
 此種類の事で御存じの事は、どうぞお福分けを願
 ます。一體花と云ふものは、誰にでもよろこばれ

四〇

るもので、たとへ一輪の花でも、非常に目をよろ
 こばせ、心を樂ませるものでございませう。取分け
 子供を本位とせらるゝ家庭、幼稚園、の如き所に
 は、是非此花壇が、ほしいと存じます。大人です
 ら、此位心を慰められるのですから、子供の爲
 には、どの位利益になるか知れません。殊に昨今
 の様な小春日和に、お庭に出ると、彼方にはコス
 モス、此方には、ダリヤ、互に艶を競ふて居りま
 す、其間を彼方此方に、駆け廻る幼児の愉快さ、
 見て居る大人迄、浮かれ出しさうになります。又
 子供は之によつて、虫と花との關係、等のお話を
 先生とか、お母様とか、伺ふことが出来て、誠
 に楽しい事でございませう。

そこで先一番に起る困難は、之を作る地所のな
 い事でございませう。東京の様に建込で居る所では、
 到底云ふべくして、行はれ難い事でございませう。
 市内の幼稚園も、たくさん拜見致しましたが、ど
 うも、充分に花壇を取る程の、遊園のおありにな

る所は、少いやうに見受けました、これは何とも致し方のない事でございませうから、私はせめて此缺點を補ふ一端とも致したい考から、切り花を絶えず、室内に飾つて置きたいと存じまして、少しばかり、自分の爲に書きあつめたものを、皆様にもお目にかけて見ませう。どうぞ心の存する所をおくみとり下さいます、あつかましく所は、平にお救しを願ひ上げます。

初には、花束を花瓶に入る、場合、花束を花籠に入る、場合、花束を髪又は胸に装ふ場合、此の三種を、おなごさみに申上ります。

第一 花束を花活に入る、場合

切花は、どんなによく作つたものでも、一度之を水に入れたらば、餘程注意を致しませんと、いけません、私共の様に、始終外出勝の者は、どうかすると、日曜から日曜迄、水をかへてやりません。夏などはどうしても、水の腐敗が早く、氣の付いた頃は、さしも美しかりし花は、見るかげ

もなく首うな垂れて、誠に氣の毒な様子をして居ります。之を防ぐには、水を腐らせぬ方法として花瓶の中に、極細にした木炭か、又は毎日お使用になる食鹽とか、又薬舗にある樟腦を入れて置けばよいのでございます。さうすれば花は久しく、見事で居ります。

第二、切花を花籠に入る、場合

籠等に切花に入れる時には、其籠の中に新しい砂を入れ、其砂の上に蘚苔をならべ、其中に切花をさしこむのでございます。さうして砂には毎度氣をつけて、水をかけなければなりません。砂は又時々新しいのを取替るのも良いさうでございませう、

第三、胸に装ふ場合

薔薇とか菊とか云ふものを、胸や髪にお飾りになる方がありますが、惜しい事には、少し時がたつと、べたべたに萎び、見るもいやな有様になる事がございます。今此天然の美しい花を、永く、

しほれぬ様にするには、どう致したらよろしいかと申しますと、菊でも薔薇でも、まだ充分に咲かない内に莖から切り（餘り長くなく）之を暫く純良酒精の中につけます。先づ十分位で澤山でございませう。後之を取り出して、今度は、溶解したアラビヤゴムの中にひたし、それをよく乾かせばよいのでございます。此仕方を以てこしらへました花束は、二十日間位卓の上で保存する事が出来ると申しますが、如何なものでせうか。私はまだ、ためした事がございませぬ、餘り手數も、かゝらぬ事ですから、皆様お暇がありましたら、おためし遊ばせ。

以上は、ほんの、おなぐさみの様なことばかり申上しましたが、是から活花水揚法のことを少し申上げませう。一寸次に、目次を掲げて置きます。

- 一、眞行草三通りの養ひ法
- 二、最も衰へ易き草木にて、之が水揚に使用する

る薬品の如きも數多を要せず。極めて簡易に最も結果よき法

- | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------|---------|--------|-------|--------|-------|--------|--------------|---------|-------|---------|
| (21) | (19) | (17) | (15) | (14) | (12) | (10) | (8) | (7) | (5) | (3) | (1) |
| 秋海棠水揚法 | 水引草水揚法 | 花菖蒲水揚法 | 孔雀草水揚法 | ぼたん | 千日紅水揚法 | 水葵水揚法 | 時鳥草水揚法 | 朝顔客待ちの傳(極秘傳) | 烏かぶと水揚法 | 鶏頭水揚法 | 茎ぶきの水揚法 |
| (22) | (20) | (18) | (16) | (13) | (11) | (9) | (6) | (4) | (2) | | |
| 萩水揚法 | 照もみち水揚法 | 雨後の杜若の傳 | 芍薬水揚法 | 魚柳水揚法 | 桔梗水揚法 | 夏菊水揚法 | 朝顔水揚法 | 吾妻菊水揚法 | 葉げい頭水揚法 | | |

まだ二三十種ございませうが、先これ丈を先きに申上げて、夫から又順々に御紹介致します。

机邊だより

倉橋惣三

○幼稚園の改良(三)

(スタンレーホール氏)

第三 幼児の興味と本能

フレーベルは實に稀代の教育的天才で、其の教育説は誠に卓越したものであります。然し其れは何時でも、如何なる世でも價値あるものとは云ふことは出来ない。幼児の本性に就いてフレーベルの説いた所と、近世科學の説く所とは其の間に調和したい點が數多ある。吾人は幼児教育の方法を擧げてフレーベルの教育説に一任すること出来ない、直接に其の職に當つて居る人は勿論のこと、總べての教育者が、幼児教育の理想と方法とに關しては益々新研究を施すべきであらうと思ふ。其れに就いては先づコメニユースとペスタ

ロッチの意見を参照することが必要である、此れ等の人々の書物には餘人の企て及ばない洞察と識見とが包含されてある。次には生物學と生理學と發達心理學の光明に依つて幼児發達の特質と階段とが明かにしなければならぬ。其れに關して必要なことは、幼児の興味と本能とを自由に働かせることと云ふことである。西洋で行はれた幼児教育の歴史を調べると、幼児を教育する目的に就いて二つの異つた見解があつた、一つは幼稚園を以て全く小學校の豫備と見るもので、幼児をして出来る限り小學校生徒の型に倣まるやうに教導し、進んでは社會の一員とし、國家の一員としても在來の型に最も能く當て倣まつたものを造り出さうとする形式主義であつた、之れに反して他の一方は、幼児の興味や本能に斯る干渉や束縛を與へないで、此れに自由な活動を興へ、本然の發達を爲さしめやうとする自由主義であつた。惟ふに幼児の自發性に自由の活動を許すことは、後來の健全な

發達にとつて重大な關係を持つて居ると云ふことは、今日一般の人々が承認して居る所である、教育と云ふことは固より自由放任と云ふことではない、然しながら三歳より六歳に至るまでの幼児に組織的教育を施すことは其の當を得ない。出来るだけ多くの自由と、出来る限り少ない制御とを以て完全な發達を計らねばならない、換言すれば幼児を第一に健康な身體となさなければならぬのである。此れと同時に他方に於いては、彼等の興味と本能の働きに就いて充分綿密に研究することが必要であるのであります。赤子に就いてはプレーヤーやダーキンを始め多くの學者が熱心に研究した。又小學兒童に就いても可なり精細に攻究せられて居る。然るに其の中間に在る幼稚園の兒童に就いては、得る所が甚だ少ないのである。フレーベルは幼兒の感情や行動や發達に就いては實に能く綿密の觀察をしたものではあるが、然し彼れの研究は只彼れの身邊に集まつたものゝみに

留まるので、即ち所謂 チャンス・オブ・サー・ペーシオン、偶然的の觀察に過ぎないので、其の結果は精確と詳細の點に於いて缺けて居るのであります。其の上彼れ一流の哲學が其の中に混入して益々其の光明を覆つて居る。近世科學が幼兒の特性に就いて知る所も亦甚だ乏しいものではあるが、此れから其れに就いて大略述べやうと思ふ。

(イ) 言語

子供は話しをすることを好むもので、父母、教師、又は身邊の誰れ彼れに就いて色々と話をしてける。玩具、人形、犬、猫などを相手としても能く話をする。何とかして自分の思ふことを發表せやうと苦しみ、此れが發表出來た時には非常に喜ぶのであります。此の言語の本能を重んじて、早くから此れが發達を計り、練習を怠らないやうにせなければならぬと云ふことは殆んど總べての學者が主張する所である。幼稚園に於いては此の本能の發達を努めねばならぬのである。

次には外國語を幼稚園の兒童に授けることの可否であるが、此れに就いては西洋の學者は二派に分れて居る。一方の人々の主張に依ると、自國の言葉も思ふやうに出来ない間に、他國の言語などを教へ込むと、双方が混同して何れが何れとも分ち難く、爲めに其の兒童の言語の發達を妨げることが夥しいと、然るに他の一方は、幼稚園の兒童には假令自國語だけを教へた所が、其れが決して其の間に完全に使へるやうになるものではない、言語本能の最も能く活動する此の時代に外國語の初歩を教へて置くことは極めて必要である、實際の事實に徴するに、外國語を授けた幼児と授けなない幼児との間には、自國語の發達に何等の相異がないと云ふのである。大體に於いて後者の意見が優勢で、且つ實行せられて居るのである。

(ロ) 好奇心、知識の本能

幼稚園時代の兒童が何事に就いても質問を起すことは普ねく人の知る所で、一つの話をすれば、

其れから其れへと續きを尋ねて際限がなく、新しいものを見れば色々の疑問を起し、中には大人が思ひも寄らぬ珍らしい質問があり、又難かしいものもある。好奇心又は知識欲の本能は此の時代の最も顯著な特徴の一つと數へることが出来る。此の見たい、聞きたい、いちりたいの本能的好好奇心を培養して、兒童が周圍の一切のものに就いて出來得る限り多くの感官を練り馴らすことは後來の發達に取つて非常に大切なことである。若し此れを怠つたならば、遊戯に左程興味を感じないやうになる、又此れが後年發達する科學上の興味にも至大の關係を有つて來るのである。『幼児が大きな眼を開き、他の一切のものを忘れて、目前の事物に注意する様を見よ、此の時代から既に教育が行はれて居ることが解る。玩具を壊したり拵へたり、又は珍らしい色を視詰め、珍らしい音に耳を傾けるのは、やがて新器械を發明し、新星を發見する初歩の働きに外ならない、されば種々の

方法を用ひて此の本能を發展成長せしめることは
 幼児教育の主眼である』とスペンサーは述べて居
 る (H. Spencer's Education)

(ハ) 遊戯本能

遊戯本能の大切なものであることは今更此處で
 くとくしく述べ立てる必要はないので、幼稚園
 の教育は大部分此の本能の上に建てられて居るの
 である。其れ故此處では只遊戯の生物學的解釋に
 就いて一言述べやうと思ふ。

遊戯を生物學上より説明するものに三つの異な
 る説がある。第一はミルレル及びスペンサーの唱
 へた所で、人は幼少の時代に於いては身體の精力
 が非常に旺盛である。此の充滿せる精力は何とか
 して外部に溢れ出づる道を得なければならぬ、
 而して此の道が即ち遊戯であると云ふので、遊戯
 は即ち精力充足の結果に外ならないと云ふのであ
 る。第二は遊戯は消費せられた精力を回復するも
 ので、疲勞した精神は之れに依つて一種の休養を

得ると唱へ、當さに第一説の反對に立つものであ
 る。第三はグルース教授 (Prof. Groose) の主張す
 る所で、遊戯的活動は本能で、大人の自覺せる真
 面目の活動の先驅者である。『動物は幼少なるが爲
 めに遊戯するのではなく、遊戯する爲めに幼少な
 のである。遊戯は單に精力を放散する道具でもな
 ければ、又休養の消極的方法でもない、動物に就
 いて見るに、此の本能を働かすことが充分でない
 時は、成長後諸種の生命保護の能力の發達が充分
 でない』と云ふのである (Play of Animals 參照)

(ニ) 美的本能

幼兒は又一般に繪を書き、音樂を聞き、繪畫を
 眺めることを好み、粘土細工、剪紙細工、折紙等
 を喜ぶものである。此れに就いて注意すべきは、
 幼兒が此等の事を爲すは、美しいものを造らうと
 するよりも、自分の思ふ所を表はすと云ふ方が一
 層強い欲求であると云ふことである。

(ホ) 社會的本能

幼稚園時代の児童を他の同年輩の児童と遊ばせることの必要であることは、早くから認められて居る所である。コメニユースは此れが幼児の知識発達の上に大なる助けを興へると云ひ、フレーベルは徳性涵養の上に大切であると云つて居る。

或人々の考に依ると此の時期の児童にあつては其の遊戯も興味も全く個人的で、餘程成長した後でなければ他人と一所に遊ぶことは出来ない云ふのである。然し幼稚園の教育に多年経験ある人々の意見に依ると(例へばシツソン女史の如き)幼児は若し之れを自由に放任して置く時は数人自づと相集まり、其の中の一人が頭となつて色々の遊戯をするもので、社交的傾向は早くから表はれるものであると云ひます。現今大部分の學者は後者の説に賛成し、人の社交的天性及び其れが極めて幼少な時から表はれることを認めて居る。

(ト) 獲得と所有

幼児は色々のものを集めることを好むもので、

此れが財産及び所有の本能の初めの形である。フレーベルも此の集合欲の必要を認め、児童の集めるもの、價値は毫も顧みるに足るものではないが、集めやうとする働きが大切で、自然と研究せんとする心も畢竟此れが発達したものに外ならないと云つて居る。

(ト) 数の本能

幼児には何時から數を教へたら可いか、又其れを教える最も可い方法は何か、と云ふことは幼稚園教育に就いて最も入釜敷く論せられた問題である。其れ故今此處では、數の觀念は如何にして生ずるか、又幼児は何時から數を習ふかを述べやうと思ふ。フイリツプス教授(Prof. Phillips)の研究に依ると、數は連續の觀念より生じ、連續の觀念は感覺の連續、例へば呼吸とか時計の振子の音の如きより生ずるとのことである。千百人の幼児に就いて實驗した所、其の中の九割は、讀むことよりも書くことよりも早く數ふることを覺えた。是

れに依つて見ると幼稚園に於いては餘程早くから
 幼兒の數の觀念を發達させることを計らねばなら
 ない。

(チ) 話の本能

幼兒が話を非常に好むと云ふことは既にプレト
 ーの時代から深く注意せられたことで、此れに依
 つて幼兒の想像や感情が豊富となり、又感覺のみ
 に全く心を支配せられることを防ぐやうになるの
 である。

兒童の爲す所は種々雑多で、何の活動は何の本
 能の表はれたもので、其れが成人の後には何うい
 ふ風に變形するかと云ふことを精細に分析説明す
 ることは、今日の科學の企て得ない所でありませ
 が、大略上に述べた八つのもが幼兒の代表的
 活動と見ることが出来ます。此れ等の活動は固よ
 り別々に表はれるものではなく、其の間には互に
 密接不離の關係があつて、他と引き離して一つの
 みを特に發達させると云ふことは出来ない、何れ

も一個の有機體の活動であることを忘れてはなら
 ない。幼稚園の教育は要する所、此の本能的活動
 の上に建てらるべきものである。若し幼兒の本能
 に至大の注意を拂はずして幼稚園教育を施したな
 らば、其れは必ず失敗に終る。恰も植物が適當
 の境遇に置かれるならば、芽を出し、葉を出し、
 花を開いて、實を結ぶやうに、幼兒も適當の境遇
 の下には完全な發達を成し得るだけの潜勢力を具
 へて居る。然らば幼稚園の根本問題は、如何にせ
 ば此れ等の潜勢力を充分に發展し得る適當の境遇
 を造り得るやと云ふことに歸するのである、ルー
 ソー、ベスタロツヂ、フレーベル等は何れも皆此
 の問題の解決に苦心したのであります。

此れに就いて注意すべきことを一二申し上げま
 すれば、幼兒をして成るべく廣い野原に遊ばせ、
 清潔の空氣を呼吸し、自由に、愉快に、活潑に遊
 ばせることが必要である。人の一生は人類の發達
 の全歴史を繰り返すものと云はれますが、潤いた

平原に自由に生活した種族は最も多く發達した所を考へれば、此の事は甚だ大切であらうと思ふ次には斯る野原にあつて幼児をして思ふが儘に外物と接觸させることである。幼児の注意を惹くものは博物の標本として箱の中に收まつて居る蝶ではなくて、野原の間に花の中を飛んで居る蝶である、紙の上に描かれた牛ではなくて、野原の上で青草を食つて居る生きた牛である、箱の中のものや紙上のもものでは幼児の精神中に入らない。最も深く彼等の注意を惹き、精神中に入つて、後年の發達の基礎となるものは實物の動いて居る姿である。

ピネー (Binet) と云ふ學者は二人の自分の子供に就いて、幼児の精神は外物に對して何ういふ反應を起すか、又何ういふ風に外物を表象するかを實驗した。一人の子供は四歳、他の一人は二歳半で一ケ年に亘つて試みた。其の結果に依ると、此の二人の子供は、外物の色や形や大きさなどには注

意せずして、其のものゝ効用に第一注意を向けた。例へばパンと云へば、其の形や色を知るよりも、食ふものであることを先づ知つた、同様に小刀とは切るもの、椅子とは坐るもの、机とは本やランプを置くものであると認めたのである。アールバース (Earle Barnes) は今少し大きな子供に就いて此れを實驗した所が、矢張り同じ結論に達した。此れに依つて觀ると兒童の眼は如何に外物を觀て居るかに略推察出來るのであります。

▽家庭に御注意△

東京女子高等師範學校附屬幼稚園の來年度幼兒募集は、明治四十年四月二日より同四十一年四月一日迄の間に出生の幼兒に限り、申込期限は明年二月一日より同廿八日迄なりと云ふ。

會告

○本會主幹黒田定治氏は、御公務御多忙の爲今回御辭任に相成りました。本會の爲には甚だ残念の至りであります。御都合上如何とも致し難く、尙今後とも相變らざる御指導と御援助とを御願ひ致す他はありません。茲に永らく本會の爲にお盡し下されました同氏の勞を謝し、右の次第を會員諸君に御報致します。

○黒田主幹御辭任後は、當分別に主幹を缺けたるまゝとし、幹事一同にて會長の總理の下に會務を分掌することに致しました。

○今回都合により發行所を「東京市小石川區久堅町七十四番地」に移轉致しました。

○爾來本會宛諸般の御用務は左の如く御願ひ致し

ます。

一、庶務上のお手紙は

東京市小石川區久堅町七十四番地安井哲宛

二、會計事務に關する御用務は

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内雨森劍

宛。

三、「婦人と子供」編輯上の御用務(原稿、

廣告等)は東京府下代々木九十二番地倉橋

惣三宛。

尙ほ本會出版物は東京女子高等師範學校附屬幼稚園前青木堂に販賣を委託して置きましたから、直接御購求の方は同店へ御出下さる様願ひます。